

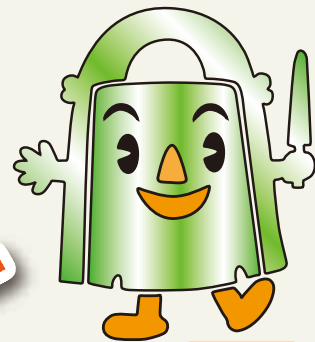
わかりやすい！
島根県の埋蔵文化財情報が満載！

ドキ土器

No.68

2021.11

まいぶん



まいぶんくん

島根県の埋蔵文化財情報誌

特集

三瓶山周辺地域の原始・古代



副葬された鉄斧



墳丘の全景

古墳の主体部（墓穴）

高原の首長墳

いのこばらいせき

① 猪子原遺跡（飯石郡飯南町下来島）

遺跡は神戸川上流の来島湖周辺に所在します。標高約460mの丘陵尾根上に立地しており、遺跡からは周囲が一望できます。発掘調査の結果、古墳時代中期（約1,500年前）につくられた長軸約20m、短軸約10mの方墳であることが明らかとなりました。墳丘中央で確認した墓壙（墓穴）は、木棺（組合式）が置かれ、棺上に鉄斧が副葬されていました。眺望のよい立地や副葬品から、地域一帯の有力者（首長）の墓であると考えられます。神戸川上流域における数少ない古墳の調査としてとても貴重な遺跡です。



特集 三瓶山周辺地域の 原始・古代



4万年前～ 約16000年前 紀元前5世紀～ 3世紀半～ 7世紀末～ 710～ 794～ 1192～ 1338～ 1573～ 1603～ 1868～
 旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代 飛鳥時代 奈良時代 平安時代 鎌倉時代 南北朝時代 室町時代 安土桃山時代 江戸時代 近現代
 ② ④ ①②③④

島根県埋蔵文化財調査センターではこれまで三瓶山周辺地域で、多くの遺跡の発掘調査を行ってきました。その結果、地域の古墳やムラの様子などが明らかになってきました。このうち今回は4つの遺跡を紹介します。

縄文時代と古墳時代の遺構・遺物を発見

かみのたにいせき

② 上ノ谷遺跡 (飯石郡飯南町下来島)

神戸川支流の上流部の緩やかな斜面に立地しています。縄文時代から古墳時代にかけての遺構・遺物が出土しました。確認された遺構の中でもっとも古いものは、縄文時代前期前半の住居跡です。住居跡周辺からは土器や石器が出土しています。石器は隠岐や大分県姫島産の黒曜石のほか、安山岩などで製作されており、石器の製作段階で発生する剥片も約23,000点出土しています。また、古墳時代中期から後期にかけての住居跡を4棟発見しました。住居の周囲からは土製切子玉や手づくね土器(ミニチュア土器)が出土しており、住居解体時に祭祀が行われていたと考えられます。

上ノ谷遺跡は、中国山間部における交流や祭祀など、当時の人々の活動実態を知るうえで貴重な遺跡といえます。



縄文時代前期の遺物



上ノ谷遺跡全景

守り伝えられた地域の宝

あかなはちまんぐう

赤穴八幡宮所蔵の考古資料

飯南町上赤名に所在する赤穴八幡宮には飯南町赤来地域で発見された考古資料が収蔵されています。この中には、来島湖周辺で発見された弥生土器や上赤名の砂子田古墳の須恵器や耳環、赤穴八幡宮周辺で採集された磨製石剣や石斧などがあります。縄文時代以降の赤来地域の歴史を知る上で非常に重要な資料です。



赤穴八幡宮



磨製石器 (赤穴八幡宮付近出土ほか)



弥生土器 (飯南町川尻地区出土)



耳環 (飯南町砂子田古墳出土)

神戸川を望む古墳時代～奈良時代の集落

もりいせき

③ 森遺跡（飯石郡飯南町八神）

森遺跡は神戸川を望む河岸段丘状に位置する、縄文時代から中世までの複合遺跡です。志津見ダムの建設に先立ち、平成3年に発掘調査が行われました。その際、弥生時代後期の住居跡7棟、古墳時代後期末から奈良時代初頭にかけての住居跡が14棟発見されました。とりわけ、古墳時代後期末～奈良時代初頭の住居跡からは、造付け竈（かまど）や土器などが多く見つかり、古代における人々の生活の一端を知ることができます。

ひとつの住居跡の床面からは、たくさん的高杯が伏せて重ねられた状態で見つかりました。家を壊す（または放棄する）時に、何か祭祀を行っていたのでしょうか？



森遺跡の住居跡



住居跡出土の土器



遺跡の全景

集落の変遷がわかる！

ま と ば じ り

④ 的場尻遺跡（飯石郡飯南町頓原）

的場尻遺跡は、神戸川支流の頓原川によって形成された河岸段丘上に位置する遺跡です。県道吉田頓原線の改良工事に伴い、平成7・8年にかけて発掘調査が行われました。この遺跡では、弥生時代から古墳時代の住居跡5棟を発見したことが注目されます。これまで、神戸川流域では上記の森遺跡を含む八神地区や志津見地区で集落跡が見つかっていました。本遺跡は、広島県との県境に近い頓原地区で、初めて見つかった集落跡であり、山間部の集落の変遷を解明するうえで大変貴重な資料です。



住居跡出土の土器



住居跡

自然災害と人々

三瓶山噴火と縄文社会

大田市と飯南町に所在する三瓶山は、今から約10万年前に活動を始めた活火山で、縄文時代には3回の噴火が確認できています。特に2回目の噴火で降下した火山灰は、三瓶山隣接地域である飯南町志津見地域で厚く堆積しており、噴火後しばらくは生活できる環境でなかったと考えられます。これに対し、来島地域は比較的薄い堆積であり、降下後も人々が生活できる環境であったと考えられます。この状況を表すように、志津見地域では降下前の土層でしか出土しない土器が、来島地域では降下後の土層で出土します。自然災害に対する縄文人の対応を検討する上で有力な情報が明らかとなっています。



三瓶山



上ノ谷遺跡の火山灰（飯南町来島地域）
※白色層が火山灰



板屋Ⅲ遺跡の火山灰（飯南町志津見地域）
※白色層が火山灰

★予告！★埋文センター講演会

出雲国府跡史跡指定50周年 「ここまでわかった出雲国府！」

近年の調査により出雲国府跡の政庁域の様相が明らかになってきました。今年12月に史跡指定50年を迎える出雲国府跡について、発掘調査による最新の考古学的成果や、全国的な国府研究などを手掛かりに、出雲国府の謎に迫ります。

開催日：令和4年1月23日

会場：松江市内(予定)

概要：①古代史研究者による基調講演

②埋蔵文化財調査センター職員による事例報告

③パネルディスカッション

※詳細については今後当センターのHPなどで告知します。

※新型コロナウイルス感染症の流行状況により、予定の変更等を行なう場合があります。



出雲国府復元模型

パンフレット紹介

シリーズしまねの遺跡パンフレット10『平ノ前遺跡』

最新刊です

シリーズしまねの遺跡では、埋文センターいおしの遺跡を分かり易くまとめて紹介しています。今回は、古墳時代の祭祀が明らかとなった平ノ前遺跡(大田市)の概要を掲載しています。パンフレットは、センターで無料配布しているほか、県内の図書館・文化財関係施設にも置いてありますので、ぜひご覧ください。

※センターのHPでもPDFデータを公開しています。
(問い合わせ先:0852-36-8608)



まいぶん出土遺物カード14

シコノ谷遺跡出土サメの歯

サメは奈良時代に書かれた『古事記』や『出雲国風土記』にも登場する魚で、そのどう猛な習性や食料として利用できることから、古代人にとってもメジャーな魚だったといえるでしょう。飯南町では伝統食として今でもレストランでサメ料理が提供されています。

松江市朝酌町の大橋川沿いの遺跡であるシコノ谷遺跡からは、156点のサメの歯が出土しました。これは縄文時代に食料として捕獲されたサメのものと考えられ、全国で3番の出土量となります。当時の大橋川は日本海の魚類が多く入って来ていたため、サメの利用が活発だったのかもしれません。



島根県の埋蔵文化財情報誌

ドキ土器

まいぶん

No.68 発行：令和3年11月

編集・発行

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒690-0131 松江市打出町33番地

TEL.0852-36-8608 FAX.0852-36-8025

E-mail:maibun@pref.shimane.lg.jp

<https://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>

